

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

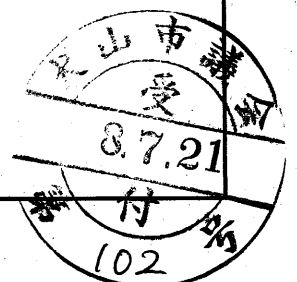
令和8年7月21日

犬 山 市 議 会
議 長 大 沢 秀 教 様

議 員 名 光 清 毅

下記のとおり、政務活動費により行政視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和8年7月13日(月)・14日(火) (1泊2日)
(2) 場 所	・山口県岩国市
(3) 形 態	会派(創 犬 会)
(4) 内 容	別紙の通り
(5) 成果・提言	別紙の通り



政務活動費成果報告書別紙

◇岩国市（面積：873.67km² 人口：118,066人）

錦帯橋のう飼事業について

○内容

- ・平成25年度まで錦帯橋鵜飼株式会社で鵜飼事業と遊覧船事業を実施していたものを、平成26年度から鵜飼保存事業を岩国市が実施しており、鵜舟や遊覧船、鵜などを市が所有し、無償で岩国市観光協会へ貸与している。

- ・岩国市は、鵜の飼育拠点として、平成29年3月に、「吉香 鵜の里」を整備した。

事業費 約1億4千万円

鵜舎は単なる飼育施設ではなく、保存・展示・教育機能を併せ持つ複合施設となっている。鵜のトレーニングしている様子のほか、飼育スペースや展示スペースがある。

鵜の飼育は、鵜匠がするのではなく、市の会計年度任用職員3名により365日体制で行っている。

- ・鵜飼事業の運営は、（一社）岩国市観光協会が市からの委託を受けて実施している。具体的な業務としては、鵜飼時の鵜舟運搬、鵜の里管理及び鵜飼育支援、鵜飼のPR業務、鵜匠の人材育成などを行っている。

なお、鵜匠や船頭などについては、観光協会が個別に請負契約をして確保している。

令和7年度錦帯橋鵜飼事業（市委託費） 22,391,288円

- ・観光協会では、春・秋季及び鵜飼時期の遊覧船事業を実施しており、その必要経費は、乗船料収入によって賄っている。遊覧船は市から無償貸与を受けている。

令和7年度錦帯橋遊覧船事業 20,159,417円

○成果・提言

- ・岩国市における鵜飼事業の分業体制は、一つのあり方として参考にできる。犬山市においては、鵜飼事業に関する業務は、鵜匠の確保・育成を始めすべて市が実施しているが、鵜飼の保存継承を前提に、鵜飼事業業務の一部アウトプットについても検討していく必要もあると考える。
- ・鵜舎の整備についても、現在課題となっているため、岩国市の例を参考にして、単なる飼育施設ではなく、木曾川うかいをより多くの人に理解してもらえる機能を持つ施設に向けて、場所や財源など総合的に検討することを求めている。

政務活動費成果報告書別紙

小瀬地区かわまちづくりについて

○内容

- ・小瀬地区は、山口県と広島県の県境を流れる小瀬川の中流に位置し、人口593人で高齢化率が58.01%の地域である。
- ・計画の背景としては、①河川敷の利活用が進んでいない ②水辺と地域の繋がりが弱い ③賑わいの不足 などの課題がある。
- ・課題解決のため、①河川空間とまちの一体化 ②歴史資源の活用 ③広域交流を実現するための交流拠点の形成 を目標にかわまちづくり計画を策定している。
- ・令和8年度から国による水辺整備の設計業務が始まっており、令和10年度の整備完了を目指している。これにあわせて、岩国市では、令和10年度から案内看板やコメントの設置など周辺整備を実施する予定である。

国の事業費 1億8千4百万円、 市の事業費 5百万円+α

- ・現在、小瀬地区の自治会や社会福祉協議会、小中学校PTA等14団体による「小瀬かわまちづくり協議会」が設立されており、定期的に会議を開催し、整備後の利活用や運営について、協議を進めている。あわせて、若い世代を巻き込み、活動に参加してもらうことで、次代への引き継いでいくことを考えている。

○成果・提言

- ・小瀬地区のかわまちづくりは、小瀬川流域の関係自治体による継続的な要望による成果であり、犬山市においても、今後も対岸の各務原市を始め関係市町との連携を深め、さらなる展開を考えてもらいたい。
- ・小瀬かわまちづくり協議会のように、整備後の水辺空間の活用と維持管理のあり方について検討することは重要であるので、必要があれば、そうした場を設けることを提言していきたい。